米海軍との意見交換について

１　日　　時　　令和４年１月11日（火）　12：30～13：00
　　オンライン会議形式で実施

２　参 加 者　　在日米海軍司令官　カール・ラティ少将
　　米海軍横須賀基地司令官　リッチ・ジャレット大佐
　　横須賀市長

３　開催趣旨　　これまで、米海軍と横須賀市とが緊密に連携し、感染拡大防止に取り組み、昨年までの感染を共に抑え込むことができた。しかし、今回の第６波とみられる感染拡大は、これまで以上のスピードで感染者が増加しており、我々は更なる連携を持って対応する必要があるとの認識が一致し、オンライン会議による率直な意見交換を開催した。

４　会議内容

（市長）

先日、ラティ少将と電話でお話した際、我々は更なる連携を持って対応する必要があり、このようなオンラインによる意見交換が重要であるとの認識が一致し、本日開催することができた。

この３連休で全国的に感染者が増えてくると思う。残念ながら、横須賀市も同様だと思う。

今日は互いの現状の確認と、今後の対応について、率直な意見交換をさせていただきたいと思う。

（ラティ少将）

先週、市長から忌憚ないご意見を聞くことができた。市と米海軍の緊密な関係の証だと思う。金曜日にお話しした直後、今後の策について内部で早速議論をした。リバティ、ROM、医療に関する様々な事柄について、米海軍は横須賀市と情報共有を重ねながら対策を行ってきた。米海軍にとって基地内・外の安全は極めて大切で、重要なことだ。

（ジャレット大佐）

金曜日の時点での基地感染者数は220名。基地司令として、先週から感染拡大防止のため予防策を強化するよう提言しており、これに加え昨日在日米軍発令の行動規制により体制が強化された。具体的には基地の外での店内飲食や、娯楽施設利用の禁止等、不要不急な行動は制限するという措置。また、門限も22：00～06：00まで設けられている。

（ラティ少将）
　横須賀コミュニティの健康と安全は、米海軍のミッション、即応体制維持と同様に重要だ。しばらくこの厳しい状況が続くことが想定されるが市と米海軍は共にコロナの波と幾度と戦ってきた。これからも戦いが続くであろうが、引き続き緊密な連携を図りながら対応していきたい。

（市長）
　これまで基地内の感染が、基地の外に広がらなかったことに感謝する。市と米海軍が、お互いにできる限りの対策を講じ、何としても市民、そして米海軍関係者を協力して守っていかなければならない。ともに頑張ろう。

（ラティ少将）
　改めて、市長からの力強いご支援に感謝する。
基地司令から現状について説明してもらう。

（ジャレット大佐）
　積極的なウイルス検査はもちろんのこと、ワクチンの追加接種は昨年の秋から開始しており、少しずつ追加接種率が上がってきている状況。基地内の接種は５歳以上が対象。ワクチンで完全に予防できるわけではないが、追加接種で感染が収まることを期待している。

（ラティ少将）
　入国による ROM（移動制限期間）は日本同様 14 日間。出発前、到着後、ROM 解除検査の３回の検査が基本。また、いままでどおり基地内施設で ROM を行うための部屋は確保できている。

（市長）
　昨日、基地従業員の感染が確認されている。彼らは、米海軍を支える貴重なエッセンシャルワーカーである。そのために、彼らの 3 回目のワクチンを国内で実施できるよう、政府に働きかけも行った。
　基地従業員の感染防止対策については、重ねてお願いしたい。

（ラティ少将）
　日本も追加接種が今年から開始するとのこと。日本人従業員達も積極的に追加接種を受けることを願う。
　日本人従業員は私達にとって大切な家族の一員。一人ひとりにきちんとした情報を提供し、安心と感じてもらえる職場、そして安全な職場を提供することが極めて重要である。いままで医療会議を実施してきたように、必要に応じ労務関連の懸念等を議論できる場を米海軍、横須賀市、防衛と設けるのも良いと考える。

（市長）
　それは、良い提案だと思う。米海軍と横須賀市の関係があるからこそ、実効性のある形を作ることができる。
　また、以前開催した医療関係者会議も、必要に応じて開催できればと思う。現場は、大変忙しい時期で、スケジュールの調整は難しいかもしれないが、感染者が急増すると、日本側の疫学調査等も変わってくる。
　そのような情報共有や、万が一の際の対応などについて協議が必要になってくると思う。

（ラティ少将）
　了解した。

（市長）
　今、横須賀市、そして米海軍がお互いにできる限りの対策を講じ、なんとしても横須賀市民、そして米海軍関係者を協力して守っていかなければならない。共通の敵であるコロナウイルスに連携して戦って行こう。

以上